

堀切地区 まちづくり構想

<目次>

【全体方針】

- | | | |
|---|------------------------|------|
| 1 | まちづくり構想とは何か | ・・・1 |
| 2 | 堀切のまちの成り立ち | ・・・2 |
| 3 | 堀切の魅力と心配事 | ・・・4 |
| 4 | まちづくりの理念（合言葉） | ・・・7 |
| 5 | まちの将来像 | ・・・7 |
| 6 | 将来像の実現に向けたまちづくりへの取り組み方 | ・・・8 |

【テーマ別方針】

- | | |
|-------------------------------|-------|
| ○防災まちづくり方針 | ・・・9 |
| ○地域活性化まちづくり方針 | ・・・15 |
| ○京成本線荒川橋梁架替事業に伴うまちづくりへの取り組み方針 | ・・・22 |

【参考資料】

- | | |
|---|-------|
| (1)「堀切地区まちづくり構想に関する懇談会」
でいただいた主なご意見 | ・・・31 |
| (2)「堀切地区のまちづくりに関するアンケート」
でいただいた主なご意見 | ・・・35 |
| (3)堀切地区まちづくり検討協議会・勉強会
の主な活動経緯 | ・・・36 |

【全体方針】

1 まちづくり構想とは何か

■構想とは何か

1) 堀切地区のまちの将来像を住民主体で描いたもの

○この構想は、今後、まちづくりを進める中で、住民と行政、その他関係主体が常に参考にできるものとして、住民主体の協議により、目指すべきまちの将来像やその実現に向けたまちづくりの方針をまとめたものです。

2) 堀切地区のまちの魅力を再認識する手がかりとなるもの

○この構想は、単に、まちの問題を指摘するものではなく、住民自身がまちの魅力を再認識し、今後のまちづくりに活かしていくことができるように、堀切のまちの成り立ちやまちあるき等を通じて、まちの魅力を明らかにしています。

3) 堀切地区のまちづくりの取り組み方を提案するもの

○この構想は、まちの将来像の実現に向けて、住民と行政が、どのようにまちづくりに取り組めばよいかを整理しています。

■構想の対象区域

○下図のとおり、堀切一丁目～五丁目を含む約 121ha の区域です。



2. 堀切のまちの成り立ち

①市街化以前の堀切(明治)

- 現在の堀切（堀切1～5丁目）は、明治初期には堀切村、小谷野村、下千葉村の3つの村でした。この頃の堀切はまだ市街化がはじまっておらず、民家はそれほど多くなく、所々に水路が流れ、神社やお寺などが見られる様相でした。（※明治6年の戸数は、堀切村77戸、小谷野村26戸、下千葉村67戸）
- また堀切には、江戸・東京近郊の行楽地としての性格があり、明治中期に堀切園、観花園、堀切茶寮、吉野園（四つ木）などが開園すると、本格的に遊山の地となりました。特に堀切村では、天祖神社から流れる水路を中心に民家や菖蒲園が見られる、特徴的な風景が広がっていたようです。

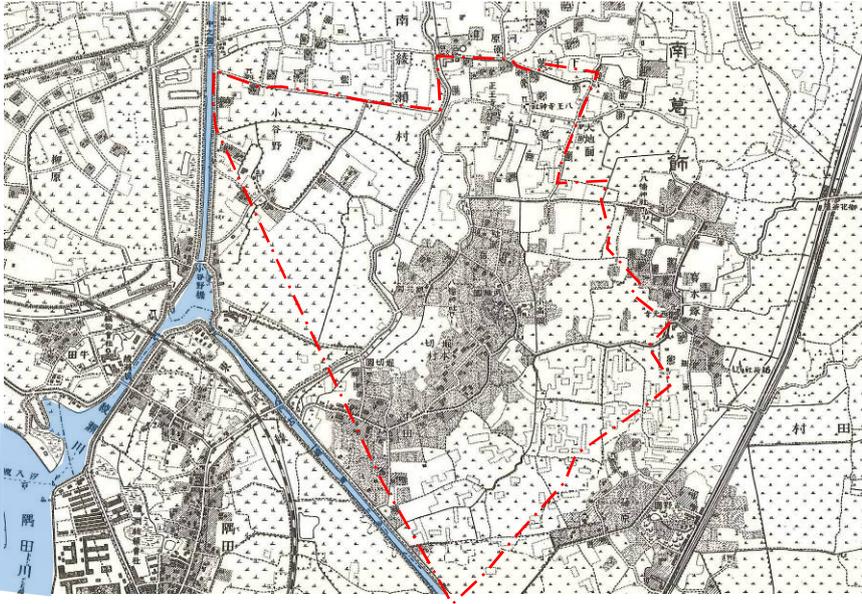
②市街化のはじまり(大正～昭和初期)

- 明治44年～昭和5年にかけて、荒川放水路が建設されました。これは、東京下町に壊滅的な被害を与えた明治43年の大洪水を受けた治水対策として実施されたものです。これに伴い、東武鉄道堀切駅が移設し、荒川には堀切橋が架けられました。
- 大正から昭和初期に入ると、墨田区より遅れつつも、堀切の市街化がはじまります。大正12年に関東大震災が発生すると、その疎開のため、堀切に工場や住宅が進出するようになりました。また、昭和6年に京成電鉄の堀切菖蒲園駅が開業すると、駅を中心に市街化が進みました。特に、堀切菖蒲園駅と堀切駅とを結ぶ道路などには商店も建ち並び、現在の商店街の街並みが形づくられました。
- 市街化が進む一方で、川の水質の汚染や連作障害により花菖蒲は衰退していきました。大正8年に観花園、昭和初期に武蔵園、10年代に吉野園、昭和17年には小高園、堀切園が閉園してしまいました。

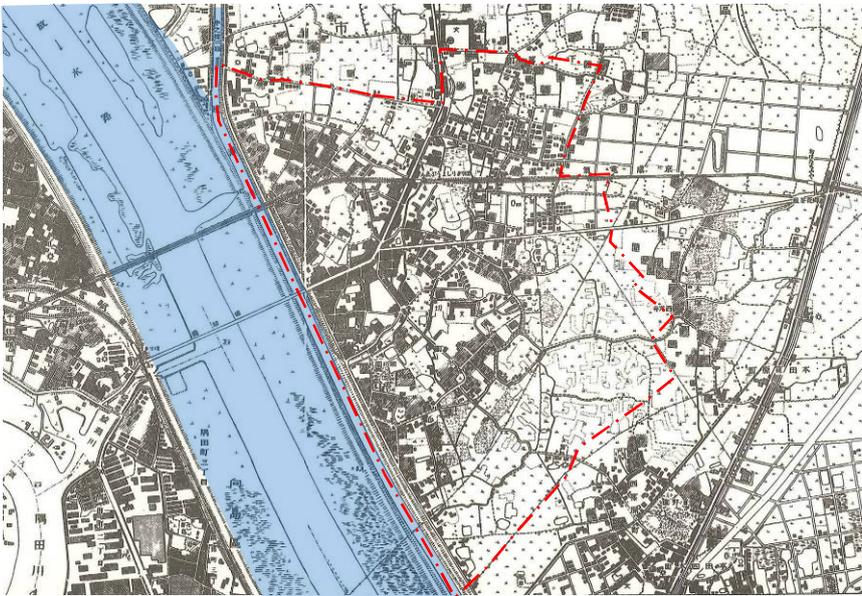
③戦後の堀切(昭和後期～)

- 堀切のまちは、幸いにも戦災の被害を受けることなく、戦後をむかえました。戦後、古くからの堀切では、計画的な道路整備等が行われずに急速な市街化が進み、湾曲した道路や路地などを残したまま、密集した市街地が形成されました。一方、現在の堀切1丁目、3丁目付近では、土地区画整理事業等によって、湿地帯であったところに新たな市街化整備が進められました。
- その後の堀切では、平和橋通りの整備、堀切中央商店街の発展・拡充、新堀切橋の建設など、自動車交通に対応するための幹線道路の整備が進められましたが、まちを大きくつくり変えることなく、それぞれの時代の面影を残しながら、今日までまちづくりが進められてきました。

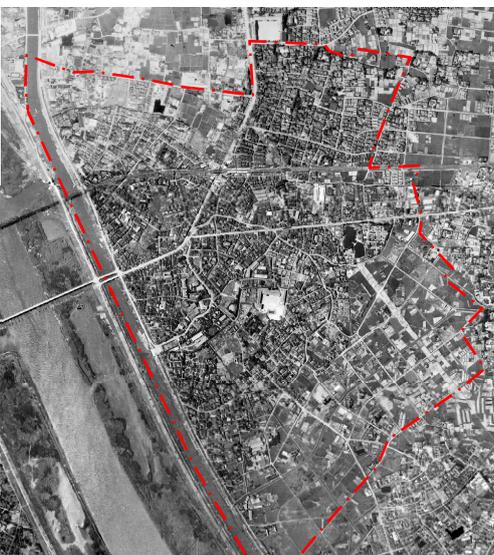
●明治 40 年頃の堀切



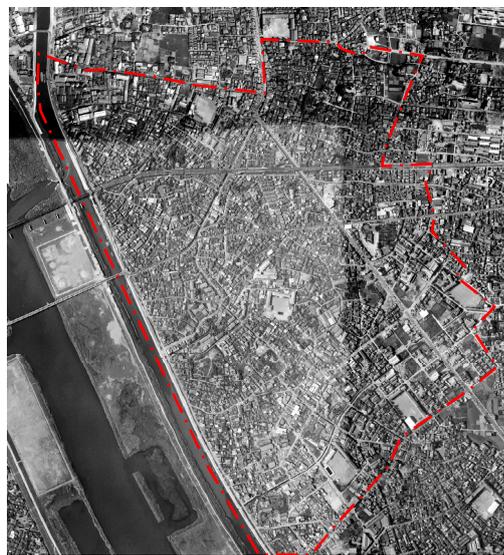
●昭和 10 年頃の堀切



●昭和 20 年頃の堀切



●昭和 40 年頃の堀切



出典：(地図)明治・大正・昭和「東京一万分一地形図集成」(航空写真)goo地図

3. 堀切の魅力と心配事

○このような成り立ちを背景に、堀切には、「まち」「なりわい」「人」の面で、様々な魅力がつつかわれてきましたが、その反面、その成り立ちゆえの心配事もあります。

まちの魅力

●下町風情のある街並みが残る、歩いて楽しいまち

- ・曲がりくねったみちや路地のある昔なつかしい街並み、日常生活の安心感

●自然や緑が身近に感じられるまち

- ・荒川、沿道の緑や花（あじさいが咲く散歩道など）、菖蒲園など

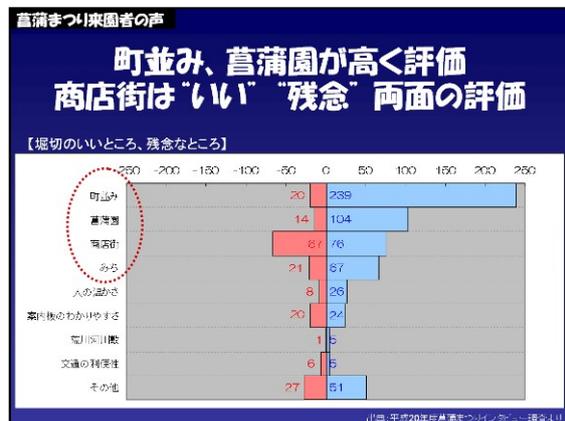
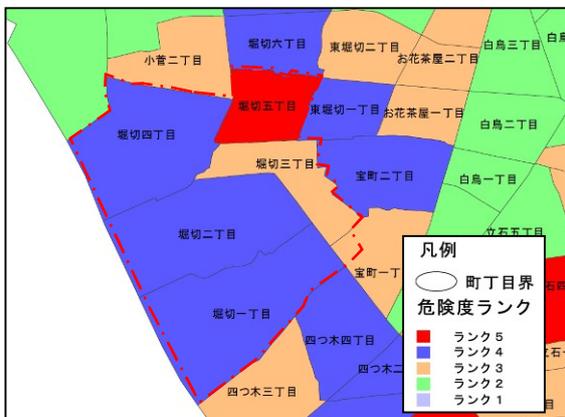
●地域内外へ発信できる地域シンボルがあるまち

- ・「堀切」の代名詞ともいえる「堀切菖蒲園」の存在、その名前がついた駅



→こんな心配事があります

- 計画的な市街地整備がおこなわれなかったために、道路が狭く、公園や広場も少なく、建物が密集しているために、震災被害を受けやすいという心配事があります。
- 計画的な市街地整備がおこなわれなかったために、まちが複雑でわかりにくく、魅力が見えにくい、魅力を楽しむにくいのではないかと心配事があります。
- 堀切菖蒲園や荒川をはじめ、様々な地域の魅力があるのに、魅力・資源が繋がっていない・活かされていない、地元がその良さをわかっていないという心配事があります。



なりわいの魅力

●身近な商店街があるまち

- ・個性ある商店街が駅周辺に広がる

●ものが生み出されるまち

- ・葛飾区の工場数は、大田区、墨田区に続き、都内で3番目に多く、堀切は区内でも古くからの町工場が特に多い「なりわいのまち」

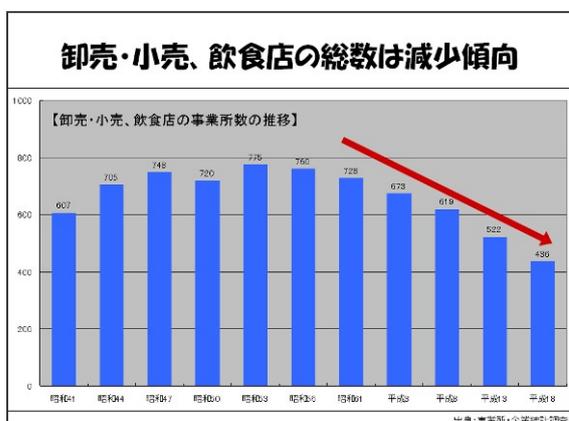
●伝統工芸が息づくまち

- ・伝統工芸：東京銀器、江戸漆器、江戸切子、印傳



→こんな心配事があります

- 身近な商店街への期待感の薄れから、商店街が衰退傾向にあるという心配事があります。
- 外へ勤める人の増加や後継者不足・世代交代の問題から、店舗や町工場が徐々に減少しており、地域の活力やにぎわいが失われていくのではないかと心配事があります。



人の魅力

●豊かな地域コミュニティがあるまち

- ・気の知れた人間関係・近所づきあい、掘切に住み続けたいという強い思い、地域への誇り

●まつりのあるまち

- ・菖蒲まつり、河川敷イベント等多数。イベント運営ノウハウ・団結力、交流機会の多さ

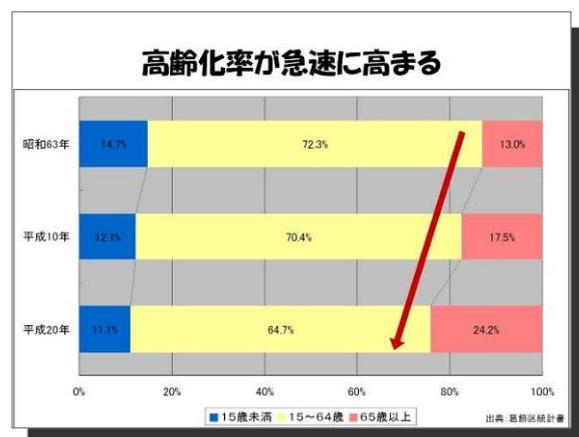
●まちづくりに対する住民熱意が高いまち

- ・区内で最初の住民まちづくり組織であるまちづくり懇談会、多種多様な地域活動



→こんな心配事があります

- 人口減少・高齢化・単身世帯増加等によって、人と人とのつながりや様々な地域活動について、その活気が徐々に失われているという心配事があります。
- 暮らしやすい・暮らし続けたいという意向が高い一方、若者が住み続けなくて地域外に出てしまったり、地域外からの新たな世帯が掘切に住みたくても住めないという現状があり、将来のまちの活力を担う住民がなかなか増えないという心配事があります。



4 まちづくりの理念(合言葉)

- 堀切では、これらの魅力を守り、活かし、育て、さらに新たな魅力を生み出しながら、心配事を解消していくようなまちづくりに取り組みます。
- 次に掲げる「理念（合言葉）」を基本にして、住民主体で取り組みます。

誰もが、堀切の魅力を楽しみ、住み続けられるまちづくり

- ～堀切の「暮らしやすさ」や「暮らしの楽しさ」につながるまちづくりを！
- ～災害が起ころしても「暮らし続けられる」強さを高めるまちづくりを！
- ～地域の人々が暮らし続けながら（追い出されることなく）取り組むまちづくりを！

5 まちの将来像

- 次に掲げるまちの将来像の実現を目指します。

- 生まれたときからお年寄りになっても、誰もが地域の中で
つながいやいきがいを持って暮らし続けられるまち**
- 地域の自然、歴史、文化など、誰もが今ある魅力を楽しめるまち**
- 災害による被害を受けにくく、誰もが安全・安心に
住み続けられる、生き残れるまち**

6 将来像の実現に向けたまちづくりへの取り組み方

○まちの将来像の実現に向けて、次に掲げる考え方を基本として、まちづくりに取り組んでいきます。

●今の堀切のまちの魅力の強化・継承とまちの改善の両立を図りながら、まちづくりに取り組みます。

○住み続けられるまちを実現するために必要なまちの改善に取り組みつつも、大きくまちをつくり変えることを前提とはせず、今ある魅力が次世代へ継承されるまちづくりに取り組みます。

＜具体的には・・・＞

- ・ブロックごとのまちの特徴を踏まえたまちづくり
- ・まちの姿や成り立ちなどの個性を際立たせ、堀切ならではのまちの骨格づくり
- ・堀切のまちの顔や核となる拠点づくり、それらをつなぐまちづくり
- ・以上を踏まえ、緊急性、モデル性、波及効果の高いところから取り組むまちづくり 等

●行政と協働でまちづくりに取り組みます。

○住民と行政が互いに役割分担しながら、地域ぐるみでまちづくりに取り組みます。

＜具体的には・・・＞

- ・まちづくりの具体化に向けて、行政による必要な情報提供
- ・まちづくりの具体化に向けて、行政による必要な計画づくりやまちづくり事業化の検討
- ・計画づくりやまちづくり事業化のための検討への住民の主体的な参加、検討内容への提案
- ・既に活動する地域団体と役割分担や連携したまちづくり 等

●住民が主体的に関わるまちづくりに取り組みます。

○構想の実現に向けて、住民がまちづくりに主体的に関わるための意識づくり、体制づくりに取り組みます。

＜具体的には・・・＞

- ・まちづくりに参加する地域住民の裾野を広げるための構想の周知・PR
- ・住民一人一人が、すぐにできることに取り組む
- ・地域の魅力や問題点、そのための対策と行動を、住民自らが話し合える場づくり
- ・住民主体でまちづくりに取り組める組織づくりの検討 等